

なぎさ NEWS



2018年度 この1年の「西なぎさ」

「西なぎさ」で行っている「生き物調査」も5年目となりました。この調査では、干潮時の「西なぎさ」で見られる生き物について調べています。2018年度はイベントの下見なども含めると計10回の調査を実施しました。ここでは、2018年度の調査でとくに印象に残った事柄を紹介します。

(教育普及係 武井 優之介)

【クロツラヘラサギの飛来】例年、冬になると「西なぎさ」にはたくさんの鳥類が飛来します。2018年も1月から4月にかけて、クロツラヘラサギの姿を観察することができました。クロツラヘラサギは東アジアのみに生息しており、環境省レッドリストの絶滅危惧IB類(EN)に掲載されている貴重な鳥です。干潟内ではエサを探す様子も観察され、東京湾奥がこの鳥の越冬場所になっている可能性があります。葛西海浜公園は10月18日に都内で初めて、ラムサール条約湿地に登録されました。



「西なぎさ」で見られたクロツラヘラサギ

【さまざまな漂着物】「西なぎさ」の波打ち際にはさまざまな物が漂着します。人の捨てたゴミなども多く見られますが、生き物が流れ着くこともあります。8月の調査では、台風の影響もあり、ミズクラゲやアカクラゲが多く漂着していました。ほかに大型のボラやクロダイなどの遺骸も見られました。2019年2月の調査では弱ったウミサボテンやウリクラゲが流れ着いていました。これらの漂着物は、「西なぎさ」の沖にどんな生き物が生息しているのかを示す手がかりにもなるので、調査では漂着物のチェックも欠かせません。



流れ着いたウミサボテン

【採集されたテッポウエビのなかま】冬が終わりだんだんと暖かくなってきた「西なぎさ」では生き物たちが少しずつ活動を始めます。2019年3月の調査では、クボミテッポウエビと思われるエビを採集することができました。これは2014年から調査をしてきて初めてのことでした。クボミテッポウエビは1997年に新種として発表された珍しいエビで、東京湾からは2007年に多摩川の河口干潟で見つかっています。今後、種の同定を進めるとともに、「西なぎさ」での生息状況を注意深く調べていきたいと思います。



クボミテッポウエビと思われるエビ

【干潟は魚たちのゆりかご】干潟は水深が浅く、エサとなるプランクトンも豊富なため、生まれて間もない魚たちが育つのにとても良い環境です。そのため「西なぎさ」でもいろいろな魚の子どもの姿を見ることができます。4月から6月にかけては複数種のハゼ、5月から6月にかけてはボラ、10月にはマゴチやイダテンギンボ、コヒキ、2019年3月にはインガレイを確認することができました。

なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、2月から4月にかけて「西なぎさ」で行った地曳網調査と生き物調査の結果をまとめて報告します。

2月地曳網調査: 水温9.5℃、気温10.5℃。通年見られるエドハゼやアシシロハゼのほか、アユの子どもが約50尾採集されました。

2月生き物調査: 気温14.5℃。カニたちの姿は見られませんが、砂を掘ると、ニホンスナモグリやゴカイのなかまを観察することができました。

3月生き物調査: 気温22.3℃。前回より暖かくなり、コメツキガニを観察することができました。波打ち際にはインガレイの幼魚が採集されました。

4月地曳網調査: 水温19.3℃、気温25.0℃。水温が低かったためか、例年、数千尾採集されるハゼ類の稚魚が数百尾しか採れませんでした。